

講義ユニット名	中枢神経系の構造と機能		所属科目名	人体構造学
講義ユニット 責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学 (内線 5115)	
		メール	haizawa@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義と実習			
概要	医師になるために必要な神経系の構造に関する知識を系統的に学び、神経機能を支える構造的基盤を理解する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。</p> <p>神経組織の微細構造を説明できる。</p> <p>シナプス（神経・筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。</p> <p>軸索輸送、軸索の変性と再生を説明できる。</p> <p>髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。</p> <p>組織の再生の機序を説明できる。</p> <p>脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢）の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。</p> <p>四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。</p> <p>脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。</p> <p>交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。</p> <p>刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。</p> <p>痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。</p> <p>視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。</p> <p>味覚と臭覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>眼球と付属器の構造と機能を説明できる。</p> <p>眼球運動のしくみを説明できる。</p> <p>対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。</p> <p>外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。</p> <p>聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。</p> <p>反射を説明できる。</p> <p>脳幹の構造と伝導路を説明できる。</p> <p>脳幹の機能を概説できる。</p> <p>小脳の構造と機能を概説できる。</p> <p>大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。</p> <p>視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。</p> <p>視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。</p> <p>大脳の構造を説明できる。</p> <p>大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野・連合野）を説明できる。</p> <p>随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。</p> <p>記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。</p> <p>脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義は3分の2程度は出席していただきたい。 実習は原則として欠席を認めない。			
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）			
評価法	講義の終了後に筆記試験を行う。評価は筆記試験の結果を中心として、授業後の小テストや実習における提出レポート、講義への参加態度などを踏まえて総合的に評価する。			

履修上の注意 アドバイス	講義の後半に脳実習を行うので、それまでに脳の主な構造や神経回路について復習しておくこと。
推奨参考書	人体の正常構造と機能（第2版 全10巻縮刷版、日本医事新報） カラー神経解剖学 テキストとアトラス（第4版 ジョン・H・マーティン著、西村書店）

